

# 令和2年度 学校自己評価システムシート ( 県立鳩山高等学校 )

目指す学校像	普通科、情報管理科併置の利点を活かした「実学」を通して、生徒一人一人を大切に、地域を支え地域の発展に貢献できるリーダーを育成する
--------	--

重点目標	1 主体的な学習態度の育成を通じた学力向上 2 キャリア教育の浸透と進路実現 3 規律ある生活習慣の確立と学校行事・部活動等の活性化 4 生徒の資質を高める地域連携の推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校関係者	5名
出席者 生徒	4名
事務局(教職員)	13名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価 ( 2月1日現在 )			実施日 令和3年2月28日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 生徒の学力が多様化しており、基礎学力に課題を抱えた生徒もいる。多くの生徒は授業に取り組む姿勢が身に付いている。 【課題】 ・基礎学力向上に向けた授業改善 ・家庭学習等に取り組むなど主体的に学ぶ態度の育成	基礎学力の定着と学習意欲の向上	①少人数授業及び少人数学級編制、その他学習支援等により「わかる授業」を実践する。 ②職員研修、授業見学等を生かし、教員間の学び合いを深め、授業改善をさらに推進する。 ③生徒の学習意欲を喚起するため、さまざまな機会にICTを活用する。 ④生徒が自ら学習する機会や姿勢を創出し、育成する。	①授業アンケートの満足度 ②学び合いの機会の回数及び授業アンケートの満足度 ③ICTを活用した教科及び授業時数 ④家庭学習に取り組む生徒の増加	ICTの活用、授業研究等の機会を設け、より「わかる授業」を実現し授業改善を進めた。 ①授業アンケートの結果、少人数授業で「分かりやすい」と回答した生徒は概ね50%である。 ②2学期に授業研究期間を設け、研究授業を実施、授業アンケートの結果「授業がわかりにくい」と回答した生徒は全体の10%未満であった。 ③各教科でICTの活用が段階的に進み、時間数も昨年度より飛躍的に増加した。 ④アンケートの結果、平日に家庭学習をする生徒は40%であり、昨年度41%とほぼ変化はない。しかし授業に積極的に参加している生徒は71%であり、授業に対する意欲は高まった。	B	生徒の実態を踏まえ、生徒の基礎学力の定着を図ることが必要である。今後も、ICTの活用、教員間の学び合いの機会を高め、授業改善を一層進める。学校以外での学習機会の確保に向けて、改めて改善を進める。生徒が取り組みやすいICTを活用した課題なども全校で検討する。	教科、また学年が働きかけ、生徒の学習意欲を高めている。 ICTを教育活動に活かすことができている。 家に帰った後、復習などに取り組んでいる。 課題への対応はある程度進んでいる。
2	【現状】 生徒の進路希望は多岐に渡り、個に応じた指導が必要である。昨年度末の進路決定状況は良好であった。 【課題】 ・3年間を通じたキャリア教育の再構築 ・生徒自身が自己理解を深める機会の創出	キャリア教育全体の改善とさらなる進路意識の向上	①進路実現に向けてキャリアデザインマップを策定し、全校で取り組む。 ②地域の多様な人材との連携による高校生自立支援事業を活用して、自己を見つめる機会を創出する。 ③個に応じた進路指導を実践する。 ④進路行事をより充実させる。	①キャリアプランに沿って取り組んだ学年、分掌の数 ②ソーシャルスキルトレーニング3回実施 ③進路指導の満足度 ④進路行事の実施回数	コロナ禍の制限下であったがICT活用も含めキャリア教育を推進した。 ①進路指導部を軸に全学年、渉外部等で連携し、保護者の参画を進めた。 ②ソーシャルスキルトレーニングを2回実施、3月に3回目予定している。 ③3年生全体の進路決定率は98%であり、ここ数年で最も高い数値である。 ④ICTを活用しリモートで実施する等、各学年のキャリアに合わせてそれぞれ複数回実施した。	A	引き続き進路実現を目指す。「キャリアデザインマップ」を浸透させたキャリア教育をさらに進める。3年間活用するeポートフォリオの導入等について学校全体で取り組み、発達段階に応じたキャリア育成をさらに浸透させる。	外部から見ても「良く面倒をみてくれる」という評判が多い。 高い進路決定率であり、また大学進学者が増加する等、指導が十分に行き届いている。 進路について、保護者との話し合いを早くから進めている。 生徒が成長していて、保護者の立場からすると有難い。
3	【現状】 規律は概ね保たれており、校内は落ち着いた学習環境である。行事による学校活性化を図ることが出来ている。 【課題】 ・生徒指導体制の充実 ・教育相談体制の整備 ・部活動の活性化	規律ある生活習慣態度の確立と自己肯定感の醸成 部活動加入状況の改善	①生徒指導体制を改善、さらにチャイムTOチャイムを徹底する。 ②校内美化により学習環境を確保する。 ③教育相談体制を改善し校内で情報共有をする。	①学校生活アンケートの結果 ②校内美化の状況 ③共有した回数	指導方針を改善・共有し、落ち着いた学校生活、学習環境を確保した。 ①学校生活アンケートの結果、チャイム前着席はできている。 ②生徒美化委員会の活用など校内美化は引き続き十分に行われている。 ③教育相談委員会、ケース会議を随時開催し、学年また全体でも情報共有した。	A	校内の規律は十分に保たれている。引き続き丁寧な指導を続け落ち着いた学習環境が保たれるよう、指導方法を共有していく。また、保護者の理解についてもさらに深める。	校内で自ら挨拶をするように心がけている。 生徒指導部が中心となり、組織的に指導が行われている。 落ち着いた学習環境が保たれた。
			①活動状況を適切に情報発信する。 ②部活動に係る活動方針を適切に運用し、活動内容を充実する。	①部活動HP更新回数 ②方針に基づいた活動計画の立案と実践	部活動加入を強く推奨、部活動活性化のためリーダー(部長)を育てる「鳩山サミット」を開始した。 ①感染予防のため活動に制限があり、部毎に差があった。日々の活動を中心に掲載できるよう改善が必要である。 ②本校の方針を基に感染予防を考慮した月毎の指導計画を立て実施した。	B	部活動の加入率は概ね60%であり昨年度と同様である。加入状況の改善のため、生徒が参加しやすい部活動の在り方を検討する。	規則正しい学習態度が醸成されている。教員間の情報共有もきちんと行えている。 部活は生徒減少もあり課題も多いが新しい取り組みを生かして、次年度に期待したい。
4	【現状】 地域に根差した学校づくりが進んでいる。本校の教育活動に対する保護者の理解もより深まった。 【課題】 ・多くの生徒が地域連携、ボランティア活動に携われる体制の確立 ・学校の様子が保護者・地域により伝わるよう、情報発信の更なる改善	保護者、地域、関係機関等との連携強化	①鳩山町との包括的連携協定を軸に「ハトミライ☆プロジェクト」等の地域連携をさらに進める。 ②地域資源を生かした教育活動を充実する。 ③学校公開及びPTA活動の活性化を進める。 ④HPの積極的な更新、広報紙発行、全教職員による中学校訪問等により本校の理解を深める。	①地域連携事業の数と関わった生徒数 ②地域の人材を生かした授業等の回数 ③学校公開日の設定及び保護者の参加数 ④HP更新回数、広報紙発行状況、中学校訪問の実施状況	地域連携の在り方を見直し、連携の深化と重点化を行った。より多くの生徒の参画も実現した。 ①生徒会その他、部活動単位での参画も促し関わった生徒は増加した。桜の植樹、植樹場所の整備などは新たにNPO等との連携が進んだ。 ②コロナ禍の影響により実施ができなかったが、次年度に向けた計画立案は進んでいる。 ③今年度は感染予防のため保護者に限定した公開とした。参加は5名であった。 ④全教員による中学校訪問を実施、HP更新はトップ記事だけで67回、全体で150回を超えた。コロナ禍の制限により広報紙発行は1回、地域への広報紙配布は実施できなかった。	A	コロナ禍の影響で地域連携の機会が激減した。このような状況も踏まえた地域連携の在り方について改善を進める。また、令和3年度から「実学」が教育課程で始まる。これまで準備を進めてきた地域資源を生かした教育活動を実践し生徒の力をより高める。	保護者との関りは深まっているが、コロナ禍で地域との連携が少なくなってしまった。 コロナ禍ではあったが、工夫して積極的に取り組んでいる。 HPを通して情報発信に努め、新たな活動も開始できた。 広報はとやまへの掲載等、地域に活動が広報されている。